

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 69 号 (H29.4.29)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 4月となり、宮崎でも開花の遅れていたヨメイヨシノが咲き、先日は個人の方が奥様のために手入れをしている芝桜を見てきました。病気の奥様のために自宅の庭を30年間手入れされ、奥様のみならず多くの方々を喜ばせてくれました。満30年を区切りに今年で終わりにしますとのお話でした。すてきですね。

今回は、現地から山元香代子先生の報告と、巡回診療に同行した学生さんからの報告等をお伝えします。

賛助会費納入及びご寄附のお願い

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業は、皆様からの賛助会費並びにご寄附により運営されています。事業年度は毎年1月から12月です。賛助会費は個人一口5000円、団体一口10000円からとなっており、ご寄附につきましては金額を問いません。



郵便局まで足を運んでいただくというお手間をおかけしますが、ご協力のほどなにとぞよろしくお願い致します。

・WEB 口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。
・入金を確認しました際には、日高から御礼のメールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。桜はもう散ってしまったのでしょうか。私は4月2日にザンビアに戻りました。

こちらは、きれいな青空が広がっていますが、2回程、激しい雨が降りました。今年の雨季はとて雨が多かったようです。こちらに戻ってからありがたいことに停電は全くありません。断水もないのですが、水圧が低く、給湯器は使えず、貯めた水で行水をしています。

4月5日はルアノの奥のサンダラでの巡回診療でした。3月は川の水量が多く、行けなくて、2カ月ぶりの診療でした。2台のランドクルーザーにルアノから2人のコミュニティヘルスワーカーと4人のボランティアが同乗しました。途中泥道でランクル2台とも泥に埋まって動けなくなりました。シャベルで穴を掘り、タイヤの前後に石を入れ、2時間程かけてようやく泥から抜け出しました。サンダラ村に着いた時は14:00

前でした。多くの人々が待っていて、早速診療を始めましたが、患者の流れが悪く 18:00 過ぎまでかかって、86 名の患者を診察しました。23 人の患者は申し訳なかったのですが、マラリア検査陰性、発熱がないことを確認して帰宅していただきました。途中の 3 つの川の水量が多く、ぬかるんだ道が続くためにどうしても暗くなる前に川を渡ってしまいかけたのです。マラリア検査での待ち時間が長くなっているようなので、次回からコミュニティヘルスワーカーの役割分担を替えることとしました。ルアノ外からのマラリア患者が多く検査陽性者は 108 名中 46 名でした。また、ビルハジア（住血吸虫症）による血尿を訴える患者が 11 名と多かったです。帰途、1 台のランクルがパンクしましたが、夜中の 0 時前にはルサカに到着しました。

4 月 12 日はルアノでの巡回診療。患者数は 171 名と多く、マラリア陽性は 166 名中 31 名(19%)。今年の頃は陽性率が 51% でしたので、昨年 11 月のマラリア蚊の殺虫剤噴霧の効果があつたのではと考えています。道路状況が悪く、2 台のランドクルーザーで行きましたが、帰りに 1 台はブレーキパイプが折れ、1 台はぬかるんでできた穴に落ちてしまい、牽引し、みんなで押し上げました。1 台のランクルは調子悪く 50km 以上スピードが出せず、私がルサカに着いたのは 1 時過ぎでした。東海大、三重大、藤田保健衛生大の医学生 5 人が同行して、仕事を手伝っていただきました。ありがとうございました。

4 月 21 日から JICA 基金を使って、ルアノでマラリア蚊の殺虫剤噴霧を始める予定です。5 月にはニャンカンガの 1 村でも噴霧の予定です。殺虫剤噴霧の準備で忙しくしていますが、車の調子があまりよくなく、不安です。しかし、何とかみんなで力を合わせて乗り切っていこうと思います。

私の不在の間も多くの方々にご助けいただき、3 月のサンダラを除き、巡回診療は継続されました。みなさまからの支援のおかげです。ありがとうございました。

巡回診療に同行して (学生さんからの報告です)

◎巡回診療に同行して

Africa Village Project 玉井葉奈 (愛媛大学 1 年)

今回、ザンビアの辺地医療を支援する会の巡回診療に同行させていただき、非常に多くのことを学び、感じる事ができました。その中でも特に強く印象に残ったこと 2 点を書きたいと思います。

1 つ目はザンビア国内での医療アクセスの差についてです。私たち Africa village Project のメンバー 5 人が巡回診療に同行させていただいたニャンカンガは、首都から車で 5 時間ほどの場所にあり、診療所もなく医療従事者もおらず、本当に医療にアクセスができないという場所でした。私たちは首都の病院も見学させていただきましたが、首都などでは車もあって道路も整備されており、また医師もたくさんいて、医療アクセスがこれほど違うのかと愕然としました。住む環境が違うだけで、命を守るための医療を受けられる受けられないという違いがあることはあつてはならないことだとは思いますが、ザンビアの経済的状況や医療従事者不足の問題など解決するには多くの問題があるのだらうと思います。しかし、山元先生が始められたこの巡回診療により、より多くの人々の命がマラリアなどから守られるようになってとても感謝している、と村人の Community Health Worker から聞き、ORMZ 様の活動の重要性を強く感じました。



二つ目は巡回診療の活動が全てザンビア人のみで行われているという点です。今回山元先生は日本に帰られている時期だったのもあり、ドライバーからクリニカルオフィサー、そして村人のボランティアまで全員ザンビア人でした。国際協力において目指すのは最終的に現地の人たちで自立して活動できるようになることだと思っています。この巡回診療ではそれが実現されているということに大変感銘を受けました。こうなるまでにスタッフの教育や村人のボランティアの育成、物資の調達など多方面で多大なご尽力があつたのだらうと思います。また、実際に活動しているスタッフやボランティア一人一人が村人の

命を守ることに對して誇りを持って真摯に取り組んでいるという様子が大変印象に残りました。

今回残念ながら山元先生にはお会いすることができませんでしたが、いずれ是非お会いして、ザンビアの辺地医療にかける思いや今後の展望について伺いたいと強く思います。

今回見学にあたりお力添え頂きました、山元先生、芦田様、現地スタッフの方、ニャンカンガ地区の方、日本には経験することができない貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。



◎巡回診療に同行させていただいて（4月12日 ルアノ）

東海大学医学部6年 藤田耕己

始めに今回山元先生にお世話になるにあたって2年前からメールにてやりとりをさせていただき、今回巡回診療への参加を実現できたことに對し、山元先生始めドライバーや準医師、助産師、そしてルアノのボランティアの方に感謝申し上げたい。同行させていただくにあたって、巡回診療の現状を教えていただいたが、薬やお金の管理、車の修理、スタッフとの連携など大変お忙しい中、実習を受け入れていただき多くの学びを得たので共有したい。

巡回診療への参加を通じて、強く印象に残っていることは継続的に地域と関わることで築き上げられた総合力である。山元先生は、半年間は日本での診療もされているが、その間も準医師や助産師、ドライバーが共同して、現地のボランティアとともに、巡回診療を行い、成果を上げていることを伺った。現地の人々を雇用し、密に連携を取り合うことで活動を現地の手で行えるところまで発展させているところに、将来にまで続く活動の継続性を垣間見ることができた。先生と数日間時間を共有させていただいた中で、よくおっしゃっていた「私は大したことをやっていません。みんなが本当に頑張っている。」というお言葉から、ザンビアでの地道な活動と先生の熱意によって地域の方々の主体性引き出していることを感じる場面であり印象的であった。

森の中についている細く、険しい道は時に枝分かれしながら、奥まで続いていた。毎週のように車を修理しなければならないとの先生のお話から、想像をしていたが、岩が飛び出している道を走り川を渡っていくこの道を毎週通っている先生やスタッフの方々に感銘せずにはいられなかった。ドライバーは激しい揺れの中でもハンドルを切りながら穴に入らないよううまく運転し5時間ほどでルアノに到着した。道すがら、村落に立ち寄る機会を得て、こちらの田舎に住む方々の住環境や食事などを拝見できたことも貴重な経験であった。到着すると、すでにボランティアがたくさん集まって準備を始めていて、患者さんも列をなしていた。この巡回診療に対するボランティアの思いと患者側の期待の大きさを感じる。実際に働いているボランティアの方々はとても生き生きと仕事をされているように見え、この仕事に関わっていることに誇りをもっているようであった。先生がこの土地をセンターにした当初は、ルアノから搬送されてくる患者は必ず重症で亡くなる、といわれるほど医療が行き届いていない地域であったという。そこから、先生が診療を始め少しずつ住民がその重要性に気づき、地域に浸透をしていったからこそ住民を巻き込んだ地に足がついた活動を展開できるのだと感じた。私はマラリアの簡易検査キットを用いた検査を担当させていただいた。患者のカルテへの結果記載とは別に、記録を作っており2割以上の方が陽性であった。全員の検査が2時くらいに終わってからも、山元先生や準医師の診察ブースにいくと長蛇の列ができていて、6時過ぎまで行われた。多くの患者がいる中でもしっかりと患者の話聞き、聴診器を当て患者の状況を正確に把握し治療処方をしていく姿から、地域との信頼関係を築いていった基礎を見た気がした。私たちも通訳を介して問診や身体所見を取らせていただく機会を得た。200人近くの患者をみて疲れているはずの先生からは充実感からくる笑顔があり、輝いているようにみ

え届かないところに届けるやりがいを先生から感じ取ることができた。

帰り道では車のブレーキが壊れたり、穴にはまってしまい動けなくなったりと一時はどうなるかと思っただが、地域の方がかけつけてくれスコップや牽引などを用いてなんとか動かすことに成功し、日をまたいでルサカまで到着した。最後の最後まで地域の方々との強い結びつきを感じさせる出来事があり、今後私が国内外の健康が保証されていない地域に関わっていく上で原体験となると強く感じた。

先生のように臨床経験が豊富な医療従事者が地域に継続して関わっていくという安心と同時に、薬をはじめとした機材の準備、車の運転、情報の市民の周知やボランティアの教育などともに作り上げる総合力を一步一步築きあげているからこそできる巡回診療の総合力を見学させていただいたことに改めて感謝申しあげるとともに、今後の活動においても地域とともに歩んでいく姿勢と、困難に対しても強い思いを持って継続して関わっていきたいと肝に命じることができました。ありがとうございました。



ザンビア情報（在ザンビア日本大使館からの情報）

◎「ザンビア起業家の情熱と支援活動」ザンビアのビジネス環境

（JICA シニア海外ボランティア ザンビア開発庁ビジネスアドバイザー澤村康史氏の投稿から）

ザンビアは、近年外国資本を中心に開発が進行しており、首都ルサカでは西欧風のショッピングセンターやアジアの食材を販売する店舗が増加しています。日本の約2倍のフラットな土地を有し、共通語が英語で政治的にも比較的安定し、アフリカの中央部に位置しているため、周辺諸国を合わせると約4億人の商圈を抱えています。昨年からの銅価格下落による通貨下落や電力供給不足などによる成長率鈍化によるビジネスリスクはありますが、長期的な視点では成長著しい戦略地域であることは間違いのないように思えます。積極的な起業家支援策による新規事業や日本の“K A I Z E N”活動による品質向上、生産コスト低減を積極的に推進する企業も増加しており、今後アフリカ進出をご検討されている日本企業にとっては、輸出入ビジネスのスタートアップをしやすい国になりつつあるのではないかと考えます。



*ザンビアの産業が発展し、その恩恵が多くの人々に広まっていくとよいですね(事務局)

以上

平成29年もご支援のほどどうぞよろしく申し上げます